

表 2

Tentative protein allowance based on obligatory N losses

Groups	Age	Body weight kg	BMR Cal/d	Protein allowance		Protein intake g/d	%
				Protein g/kg	Protein g/d		
A-1	10. 7	28	741	1.41	40	37	93
2	10. 8	26	726	1.52	39	35	90
3	11. 0	24	725	1.60	38	43	113
4	11. 6	23	925	2.04	47	39	83
5	12. 4	28	888	1.64	46	28	61
6	11. 8	18	691	2.10	39	35	90
7	12. 0	20	922	2.36	47	32	68
8	12. 5	23	658	1.66	38	41	108
	11. 6	24	785	1.80	42	36	88
B-1	13. 7	32	816	1.37	44	50	114
2	14. 2	29	996	1.72	50	52	104
3	15. 0	32	899	1.34	43	48	112
4	14. 0	24	845	1.86	44	40	91
5	14. 6	24	733	1.64	40	33	83
6	15. 5	31	878	1.40	43	50	116
7	16. 2	24	800	1.48	36	31	86
	14. 8	28	852	1.55	43	43	101
C-1	20. 1	31	888	1.39	43	47	109
2	21. 3	25	815	1.59	40	43	108
3	22. 4	25	812	1.60	40	35	88
4	23. 5	37	1038	1.37	51	57	112
	21. 9	30	888	1.49	44	46	104

10) 肥満児・るいそう児を適正体重にするための栄養量

国立療養所東埼玉病院

大島 久夫 小林 繁
小林 由美子 岡 茂

筋ジス患児 108 名の内、デシャンヌ型は 88 名おります。患児達のなかにも、やせている子、肥っている子がありますので、ローレス指数を使い調べてみた所、肥満児 8 名、るいそう児 3 名がおりました。なお肥瘦の判定基準は本症児の平均値から、上位 20~30% 以下を肥満、下位 20~30% 以下をるいそうとし、肥満児、るいそう児とでは、食事量にどの位の違いがあるかを調査しました。

肥満児、るいそう児の間に普通児を入れ、3 名づつ 3 日間を 2 回行ない、平均した結果副食よりも主食の方に摂取量の違いが認められました。(表 1)

肥満児を適正体重にするために、7 名を選び期間は 30 日間とし、2 名については毎食、主食量を 100 g 減らし、副食、おやつ等については、他の患児と同じ量を食べさせました。結果としては表 2 のようになり、主食量を減らした A、B の患児については、体重の増加量は少なく、F については減少しました。

症例数も少なく、期間も短いために延命の効果までいきませんでした。今後も肥満児のようすを

みながら、医師とも相談し、主食量を調節していきたいと思います。

るいそう児については、副食量は同じ位食べているので、主食量の少ないだけのエネルギーは、どこかで取らなくてはならないが、摂取量を多くすることはむづかしく、食事の内容やおやつなど患児達の心理的栄養を考えて、もう一度検討していきたいと思います。

表1 1日平均摂取主食および副食量

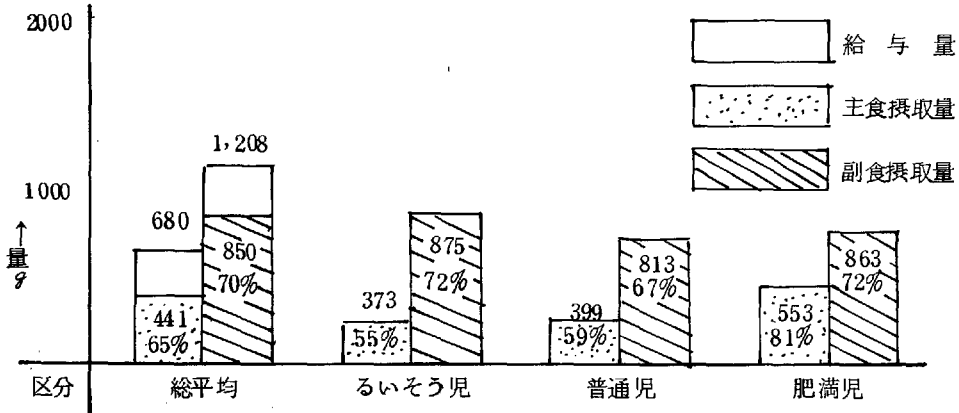
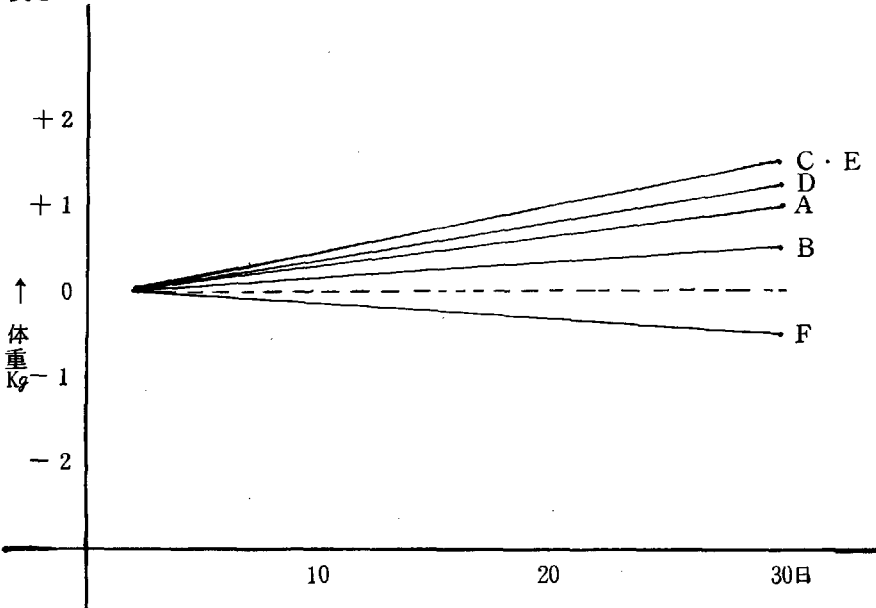


表2



↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

筋ジス患児 108 名の内、デシャンヌ型は 88 名おります。患児達のなかにも、やせている子、肥っている子がいますので、ローレス指数を使い調べてみた所、肥満児 8 名、るいそう児 3 名がおりました。なお肥瘦の判定基準は本症児の平均値から、上位 20~30%以下を肥満、下位 20~30%以下をるいそうとし、肥満児、るいそう児とでは、食事量にどの位いの違いがあるかを調査しました。